



集 会 等 の 紹 介

8月11日(土) 午後1時半～4時ころ :: 「すいとん」を食べながら::

終戦記念日によせて 戦争体験を語り継ぐつどい

- ① 紙芝居とお話 渡辺 享子さん ② お話 加藤 榮一さん
会場：代沢地区会館 1階・調理室 主催：代田・九条の会

9月8日(土) 午後1時半～

「世田谷・九条の会」結成7周年記念のつどい

- ① 講演 蓮池 透さん ② 落語 立川 談之助さん
会場：成城ホール (小田急線・成城学園前下車約5分)
主催：世田谷・九条の会 入場料：999円

東京の九条の会・大交流会に参加して(7月1日)

正則高校で、午前10時から、私たちのつどいにも来てくれた「制服向上委員会」の4人の高校生+橋本美香さんの元気な歌声で始まり、渡辺治さんの講演「憲法を日本のチカラに！」を聞きました。

1998年民主党結成から2009年の政権交代まで、そして、野田内閣の今まで、九条の会の運動、草の根の運動、憲法問題をあわせて、わかりやすく話されました。そして、これから、原発再稼働・社会保障と税の一体改革・TPP・沖縄基地(オスプレイの配備も含めて)目白押しの改憲案など。これらを許さない、憲法を力にした、一人一人の国民的運動の必要性、その力を私たちは持っている、ということに共感しました。

午後からは、分散会・分科会に分かれて話し合いました。私は、分科会⑨「橋下ファシズムを考える」に出席しました。

弁護士の上条貞夫さんより、橋下市長と憲法九条、橋下流宣伝の手法、前例としてのヒトラーがなぜ政権をとれたのか、などが話されました。その後参加者で意見を出し合いました。今の社会的閉塞感、単純な言葉(キーワード)の繰り返し、大手マスコミの宣伝など、何か変えてくれるのでは、と思いつまされているのではないかと、参加者の方が話されていたのですが、ツイッターの力です。

橋下市長がツイッターで(大震災被災地のガレキ処理が進まないのは)全て、憲法九条が原因だと言ったということは知っていました。しかし、みんなが橋下市長にいろんなことをツイッターでつぶやくと必ず返信があると、(もちろん、かなりの人(何千人、何万人?)でしょうから本人がしているだけでなく、何人かの人を使って返信しているのでしょうか)。でも、つぶやいた人が、自分の思いを受け止めてくれたと、とても身近に感じさせるということでした。参加者は、やはり年配の人が多く、ツイッターはできないので、どうしたらいいのでしょうかね…という意見も出ていました。“反原発のデモ”もツイッターから、を考えると、これからがんばってやってみようか(誰か教えて)と思ひ会場を後にしました。

なお、交流会ということで、分科会・分散会では、各々の会の紹介カードを配りました。私は「九条の会・荻窪」「土建九条の会・中野」「東京土建武蔵野支部 九条の会&主婦 九条の会」「江北 九条の会」の紹介カードをいただきました。
(代田4丁目・萱野 幸子)



～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、
「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～

東北大震災の被災地を見舞って

6月21日から24日に、夫婦で念願であった被災地見舞いの旅を、JRの「大人の休日倶楽部」会員のための東北スペシャルパス（1万3千円・4日間乗り放題）を利用して、実行した。計画は、盛岡・北上。仙台で宿泊。2日目に盛岡から釜石線経由で釜石に出て、釜石・大槌周辺を回って北上へ。3日目は一関から大船渡線で気仙沼に出て、気仙沼。陸前高田周辺を回って仙台へ。4日目は仙台から高速バスで石巻に出て、石巻・女川周辺のそれぞれ被害の大きかった地域を回り、連絡・代行バス、仙石線を使って仙台に戻り、その日のうちに帰京するということであった。それぞれの場所の足は、費用はかかるが効率的であるタクシーに頼ることにした。

2日目釜石駅に着くと、すぐ前が新日鉄の釜石製鋼所で通常に操業しているので一見何事もなかったかのように見えた。客待ちのタクシーに目的を話して乗り込む。タクシー運転手のK氏は大槌町の人で、津波で奥さんと家を流され仮設住宅に住んでいることがわかる。当時のことを話しながら最初は石巻港方面を回る。すると様相は一変して荒涼たる野原が広がる。それから海辺の岬の長いトンネルを抜けて北上すると大槌町である。町長以下多くの殉職者を出した町役場跡の玄関の祭壇に参る。近くの県立病院跡も痛ましい。港からは「ひょっこりひょうたんじま」



大槌町の県立病院

のモデルの蓬莱島が望めるが淋しげである。再び釜石駅から花巻を経て北上へ。

3日目は気仙沼駅へ。すぐに駅前のタクシーと交渉する。運転手のM氏は中年でまだ若く、津波の時は小さい子供2人を守り抜いたが、家は流され仮住まいとのこと。説明がうまく助かる。やはり初めに港のほうに行くが、惨状は同じで南気仙沼駅（気仙沼線）周辺が商店街だったそうだが、駅の土台が少し残るだけで説明しても



陸に上がった「第18共徳丸」

らわなければ何もわからないほどである。そして陸前高田のほうに行く途中に、港から750mも内陸に大型漁船「第18共徳丸」が乗り上げており、M氏の家はそのすぐ近くだったそうである。M氏によれば、見学に来られることは大歓迎であり、「忘れられていくのが一番こわい」と言っていた。そこからは、海辺の道を通って陸前高田に向かうが、そこは高田松原がきれいな景勝の地であった。しかし、堤防が低かったため津波にまともにやられ、人口2万3千人のうち1割以上の2400人が死亡・行方不明となった。一本だけ残った松原の松も枯れて行くようで保存は難しいらしい。また、5階建のマンションの残骸で、4階まで津波にやられた跡がはっきり見え、いかに津波が高いものであったかがよくわかった。帰りにM氏は気仙沼湾が一望できる室根山に案内してくれた。

4日目は、仙台駅前から高速バスで石巻に行き、仙石線の石巻駅前までタクシーに乗る。その運転手のO氏も前は漁業をしていたが、船が流されたため転身した人で、家も流されているので仮住まいという。被災地にはそのような人が多いようだ。駅のあたりも腰のあたりまで津波に漬かったそうである。例によって港のほうに出ると同じような惨状で、供養塔のある場所でお参りをした後、女川の方に向かってもらう。女川も被害のひどかった所で、横倒しになったコンクリート造りのビルが



1本残った高田松原の松



横倒しのビル

まだいくつも転がっている。女川半島には東北電力の女川原発があるが、危うく浸水を免れたそうである。帰りは石巻駅から連絡バスを使って松島海岸駅まで行き、仙石線で仙台に出て帰京した。

今回は福島の方まで回れなかったのが残念だったが、後日を期したい。旅を終えて心配だったのは、時を経るにしたがって被災した方々に疲れが出ているように感じられることである。（代田5丁目・野間口 至）

日本国憲法

第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

第99条 天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ。

お願い：ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。また、活動費用に充てるためのカンパをお願いします。